

令和3年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：上川地区
- 2 事例報告学校名：占冠村立占冠中央小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 井上 隆 一
- 4 キーワード：へき地、小規模のよさを生かす

1 はじめに：学校の概要

本校は上川管内の最南端にあり、日高山脈、夕張山地に囲まれた盆地状の市街に位置する。今年度は、通常学級が4学級、特別支援学級が2学級設置され、全校児童数が26名の小規模校である。占冠村のキャッチフレーズ「自然体感占冠」が示すように、大陸性気候の影響を受け夏冬や昼夜の寒暖差が大きい、自然環境に恵まれ周囲を取り巻く山々の緑や紅葉の景観には目を見張るものがある。

本校は1911(明治44)年開校、本年度開校110周年を迎える。児童在籍数は、209名を数えた1962(昭和37)年をピークに減少し続け、ここ10年は30名前後で推移している。

また、平成26年度に学校運営協議会(コミュニティ・スクール)が設置されるとともに、平成30年度には施設分離型小中一貫校の指定を受け、学校運営協議会も小中一本化された。村内3校すべてがコミュニティ・スクールに指定されており、「CS占冠学園」として、一部教職員の兼務発令による指導体制の充実や授業協力、合同学習・行事の実施など地域全体で子どもたちを育てる取組を進めている。

2 小中一貫校としての取組

令和元年度より相互の専門性を生かした乗り入れ授業が始まり、今年度は、中学校教員に高学年の算数、理科、外国語、中学年の体育を担当していただいている。以前に乗り入れを経験している中学校教員も多く、児童理解も深まり、中1ギャップ緩和にもつながっている。以前は複数の小学校教員が中学校に乗り入れを行っていたが、今年度は中1英語の乗り入れのみにとどまっている。中学校の定員増によることもあるが、今後、中学校の生徒数減少を見据え、小学校からの更なる乗り入れ充実も検討し、小中の円滑な接続を図っていききたい。

令和2年度、小中学校運営協議会の熟議を経て、「義務教育終了段階の目指す子どもの姿」が策定された。これを受け本校においては「小学校卒業段階の目指す子どもの姿」も策定した。この「子どもの姿」の実現に向け、今年度、小中合同研修を一堂に会して行った。グループ協議を行い、相互の取組の差異について理解を深めた。今年度は、まずキャリア教育の接続を行うことを学校運営協議会でも確認した。今後も定期的に合同研修の機会をつくとともに、各担当、係など実務レベルでの連携を深めていく予定である。

コロナ禍の影響で、思うに任せないこともあるが、次年度にはまず合同運動会・体育祭を実現したい。さらに互いの授業を参観する機会を増やして、相互理解、児童・生徒理解を深め、義務教育終了段階の子どもの姿を具現化するために、小中連携を一層深めていく。

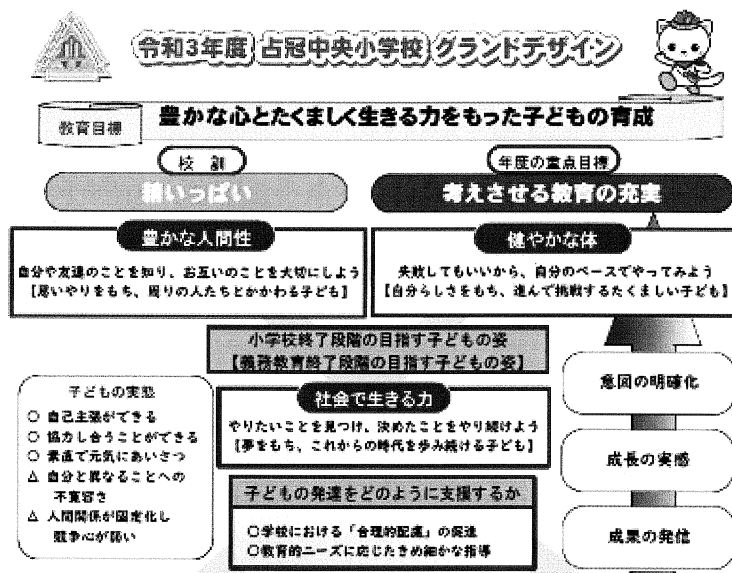


図1 グランドデザイン (一部)

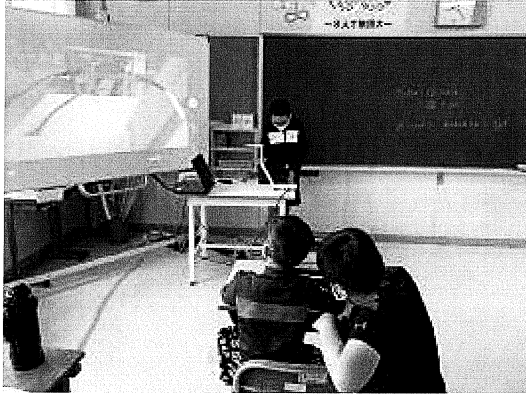
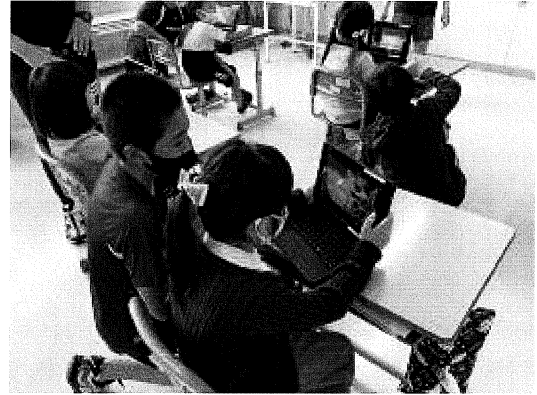


図2
高学年が一年生にタブレットの使い方を教えている様子



3 ICTを活用した取組

本村では、平成27年度より、児童生徒一人一人にタブレットPC端末が配備され、その後も各学年に電子黒板・実物投影機の設置、デジタル教科書の導入が進んだ。また、村内3校の無線通信環境やネットワークを整備し、テレビ会議システムを導入するなど先進的にICTの活用に取り組み、へき地、小規模のデメリットをメリットに変える努力を惜しまない。

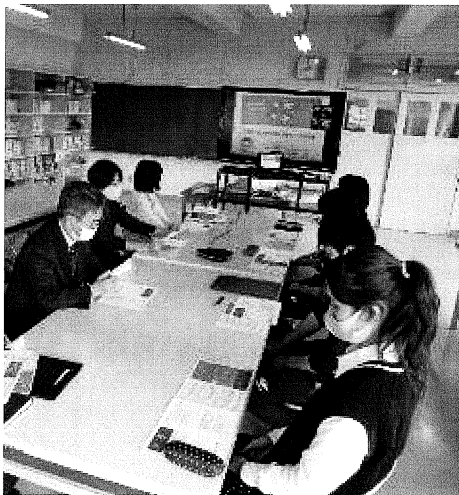


図3 「Zoom de研修」の様子

《校内研修》

本校は、若手の職員が多く、このハード面の環境を十分に活かし、子どもたちの教育に当たっている。日常的に機器を活用し、まずは「つかう」「なれる」ことから始め、試行錯誤しながらもよりよい活用の仕方を模索している。

研修テーマも「日常の授業改善に資する授業研究の推進～ICT機器の効果的な活用による授業づくり～」として、年3回指導主事訪問を要請し、積極的に効果的な活用に関する実践的研究を進めている。また、昨年度は、上川教育局独自事業のオンライン指導主事派遣「Zoom de研修」に参加した。3度のウェブ会議システム接続研修を通して、学習評価の在り方に関して理解を深めた。

《村内合同学習》

村内トママ学校とは修学旅行、宿泊研修を始めとして社会見学、スキー学習など各学年またはブロック単位で集合学習を行っている。TV会議システムを利用し、事前学習、打合せや教科横断的なまとめの発表など日常的に交流を行うようにしている。

《遠隔授業》

これまでも道外の小学校との交流学习や北大と結んだ留学生との国際交流を行ってきた。昨年度は、第5学年で道研の協力の下、道内3校（苫小牧市、共和町）を結んだクラウドサービスを活用した授業を行った。

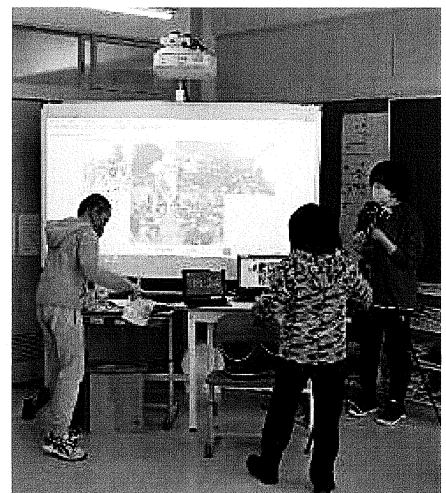


図4 クラウド活用授業の様子

4 おわりに

村教委を始め占冠村や住民による有形無形の支援のお陰で、へき地、小規模の特性を最大限に生かした教育環境が整っている。将来、村を巣立つ子どもたちの活躍のため、小中一貫校として、更に連携・協働を深め、小中一体となって義務教育9年間で「生きる力」を育てていく。